

## 地域アクションプラン総括シート

### (高知市地域)

#### 「数値目標等に対する客観的評価」の方法

- ・達成状況を客観的に評価できる目標について、以下により4段階評価を実施  
(客観的に評価できない定性的な目標については、「－」としている)

区分	評価基準	
A+	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できたもの、または状況を改善できたもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標を達成したもの → 数値目標の達成率（または達成見込率）が100%以上</li> <li>・数値目標ではないが客観的に評価ができる目標を達成した（または達成する見込みがある）もの</li> </ul>
A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標をほぼ達成したもの → 数値目標の達成率（または達成見込率）が60%以上100%未満</li> </ul>
A-		<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標の達成に向けて十分な進展が見られなかったもの → 数値目標の達成率（または達成見込率）が60%未満</li> </ul>
B	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できなかったもの、または状況を改善できなかったもの	

【地域アクションプラン 総括シート】  
 ≪高知市地域≫

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>1 キュウリの生産販売対策の強化による産地振興</p> <p>県内一のキュウリ産地の生産から流通・販売までの課題解決に取り組み、産地基盤の強化と農家所得の向上を図る。</p>	<p>&lt;黄化エソ病対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>黄化エソ病対策 (H24~26)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>協議会開催 H24 3回</li> <li>H25 2回</li> <li>H26 1回</li> </ul> </li> <li>天敵導入実証ほ H24 10ヶ所</li> <li>H25 6ヶ所</li> <li>H26 8か所</li> </ul> <p>&lt;生産の収量・品質向上対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有利品種の探索と導入 (H24~25)</li> <li>品質向上対策 (H24~26)</li> </ul> <p>&lt;流通、販売、消費拡大対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消費宣伝対策 (H24~26)</li> </ul> <p>&lt;出荷場の機能強化・GAPの推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>選果ラインの改善検討 (H24~26)</li> </ul> <p>&lt;産地の維持拡大対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者の確保育成 (H25~26)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高収量、高品質化等の対策が進み、販売額もほぼ目標とする水準を維持している。</li> <li>⇒販売額                     <ul style="list-style-type: none"> <li>H26園芸年度 31億円</li> <li>(目標額 30億円)</li> </ul> </li> <li>⇒出荷量                     <ul style="list-style-type: none"> <li>H23園芸年度 10,500t</li> <li>→H26園芸年度 10,769t</li> </ul> </li> <li>天敵利用技術導入農家が増加した。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>H24 8戸</li> <li>H25 35戸</li> <li>H26 33戸</li> <li>H27 53戸</li> </ul> </li> </ul>
<p>2 グロリオサの生産販売対策の強化による産地振興</p> <p>県育成品種の生産拡大を進め、品種の多様性を活かした販売対策を強化し、日本一のグロリオサ産地の活性化と農家所得の向上を図る。</p>	<p>&lt;流通・販売対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング事業の実施 (H24~25)</li> <li>市場との販売検討会 (H24~26)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>H24 2回</li> <li>H25 1回</li> <li>H26 3回</li> </ul> </li> <li>輸出への取組 (H24~26)</li> </ul> <p>&lt;県育成品種等新品種の栽培技術の確立と作付拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>希少品種 (オレンジハート) 検討会・栽培調査及び出荷計画の検討 (H24~26)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高収量、高品質化等の対策に取り組み、品質 (秀品率) はほぼ目標値を維持している。</li> <li>⇒秀2し率 (サザンウインド)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>H26園芸年度 51%</li> <li>(目標値 50%)</li> </ul> </li> <li>オレンジハートなど新品種の生産販売が始まった。</li> </ul>
<p>3 生産と販売促進対策の強化による消費地に選ばれるユリ産地の振興</p> <p>消費地ニーズに基づいた生産出荷対策を強化し、有利販売による農家所得の向上を図る。</p>	<p>&lt;市場ニーズに応じた生産出荷対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>摘蕾技術向上のための勉強会、現地検討会の実施 (高知: H26)</li> <li>市場との販売検討会 (H24~26)</li> </ul> <p>&lt;消費地の情報収集&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング事業の実施 (H24~25)</li> </ul> <p>&lt;新たな販売戦略の検討と実践&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>共販体制の整備・出荷によるブランド力向上の取り組み (春野: H26)</li> <li>関西市場仲卸でのPR活動 (春野: H26)</li> <li>チラシ作成・市場調査等                     <ul style="list-style-type: none"> <li>産業振興推進総合支援事業費補助金 (ステップアップ事業)</li> <li>H24: 146千円</li> </ul> </li> <li>ユリオリエントル系希少品種販売促進 産業振興アドバイザー派遣 H24: 5回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏場のヒートポンプ冷房や冬期のヒートポンプ加温機の導入、またボリュームアップ処理 (摘蕾処理) など高収量、高品質化等の対策が進んできた。</li> <li>PR活動で収集した情報・ニーズをもとにした共販体制への改善が行われている。(春野)</li> <li>ホームページ「春野のユリ」の情報が充実し、市場関係者にも評価されている。</li> </ul>
<p>4 イチゴの生産販売対策の強化による産地振興</p> <p>生産安定対策 (夏場の育苗、冬期の品質向上など) や新たな販売戦略の実践による介良イチゴの知名度アップと農家所得の向上を図る。</p>	<p>&lt;生産安定対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>炭そ病対策 (H24~26)</li> <li>ヒラズハナアザミウマ対策の実施 (H24~25)</li> <li>出荷形態の検討 (業務用イチゴ) (H25~26)</li> </ul> <p>&lt;流通・販売対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>販売活動の実施 (H25~26)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>H25 2回</li> <li>H26 2回</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出荷形態を検討したことで、調整作業の効率化が進んだ。</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
出荷量 11,000 t (H23園芸年度: 10,500 t)	(H27年度末見込) 11,000 t  (直近の実績) 10,769 t (H26年 度末)	A+	生産者の減少に伴い栽培面積は減少しているが、高収量、高品質化対策等が進んだことにより、出荷量はほぼ目標値並みを維持している。  <課題> 産地の維持拡大のための担い手確保、環境制御技術や天敵利用技術などによる高収量・高品質化への取り組みのさらなる拡大が課題である。	・指導農業者や就農希望研修生の確保 ・担い手農家の規模拡大 ・生産の収量・品質向上に向けた環境制御技術の普及促進
販売額 80,000万円 (H23園芸年度: 74,000万円)	(H27年度末見込) 70,000万円  (直近の実績) 68,885万円 (H26 年度末)	B	産地が、単価安の夏期や加温コストの大きい厳冬期の生産量を調整するなど、計画的生産・出荷を行った結果、単価の維持が図られた。一方、有望な新品種への切り替えに伴う球根(塊茎)養成増殖や一部生産者の品目転換等のため、出荷量及び販売額は伸び悩んでいる。  <課題> 消費者ニーズに応じた多様な品種の周年出荷体制の整備が課題である。	・県育成品種等新品種の栽培技術の確立と作付拡大 ・物日や年末需要などに対応した計画的な生産・出荷体制の整備
販売額 46,000万円 (H23園芸年度: 42,000万円)	(H27年度末見込) 39,000万円  (直近の実績) 37,903万円 (H26 年度末)	B	県内外の市場関係者との交流も活発で、品質に対する評価も上がっている。生産者の減少による生産量の減少、及び競合産地の冷涼産地の出荷時期延長等により、市場におけるユリの飽和状態が続くことで単価が下落傾向にあることから、販売額が伸びていない。  <課題> 高知ブランドをPRする流通・販売対策が課題である。	・消費地の情報収集や市場ニーズに応じた生産出荷対策 ・新たな販売戦略の検討と実践
販売額 12,000万円 (H23園芸年度: 10,900万円)	(H27年度末見込) 7,300万円  (直近の実績) 9,448万円 (H26年 度末)	B	H26園芸年度は、育苗期の病害等の影響が少なく、作付面積に必要な苗を確保できたため、前年度より出荷量増となった。一方、H27園芸年度は育苗期の炭そ病発生により収量が減少した。  <課題> 育苗期における炭そ病対策の徹底による苗の確保と産地としての品種構成の確立が課題である。	・栽培管理技術の高位平準化 ・冬の品質向上など生産安定対策の実施

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果																		
<p>5 ナシ産地の振興とブランド強化</p> <p>針木産新高梨のブランドをブラッシュアップし、全国展開できるブランド力を育成する。また、生産の障害となっている鳥獣被害対策や産地を支える経営体の育成に取り組み、持続的な発展を目指す。</p>	<p>&lt;鳥獣被害対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鳥獣害対策の実践（H24～26） 協議会・研修会の実施 H24 9回 H25 5回 H26 5回</li> </ul> <p>&lt;産地ブランドのブラッシュアップ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高付加価値販売、加工品の開発、販売（H24～26）</li> <li>高温障害等対策（H24～26）</li> <li>パッケージデザインの統一、商標の取得（H24）</li> <li>出荷用段ボール、100周年ロゴシール作成 産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業） H24：884千円</li> </ul> <p>&lt;アドバイザー派遣&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>梨定植100年さらなるブランド力の強化 H24：2回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高収量、高品質化等の対策が進み、販売額もほぼ目標とする水準を維持している。</li> <li>カラス対策協議会が、平成25年5月から鳥獣対策協議会に改称し、地域ぐるみでのカラス、ハクビシン、イノシシなどの対策が実施されるようになり、被害状況に一定の効果が見られた。</li> </ul>																		
<p>6 時代のニーズに対応できる早期米産地の振興</p> <p>地球温暖化に対応した栽培技術の徹底や実需者ニーズに応じた新たな設備投資など、産地基盤の強化による農家所得の向上を図る。</p>	<p>&lt;地球温暖化に対応した栽培技術の確立&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>共同利用機械等（コンバイン・無人防除ヘリ）の整備（H25～26）</li> <li>各種調査ほの設置、講習会、現地検討会等（H24～26）</li> </ul> <p>栽培講習会</p> <table border="0"> <tr> <td>H24</td> <td>11回</td> <td>延べ227名参加</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>17回</td> <td>延べ326名参加</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>14回</td> <td>延べ264名参加</td> </tr> </table> <p>現地検討会</p> <table border="0"> <tr> <td>H24</td> <td>2回</td> <td>35名参加</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>2回</td> <td>55名参加</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>3回</td> <td>39名参加</td> </tr> </table>	H24	11回	延べ227名参加	H25	17回	延べ326名参加	H26	14回	延べ264名参加	H24	2回	35名参加	H25	2回	55名参加	H26	3回	39名参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>リレー出荷体制（南国そだち→ナツヒカリ→コシヒカリ）が充実し、集荷量もほぼ目標とする水準を維持している。</li> <li>栽培講習会や現地検討会によって、鉄コーティング湛水直播、白未熟粒対策などに対する認識が高まった。</li> <li>無人防除ヘリ1機を導入（H26高知県こうち農業確立総合支援事業で支援）し、効果的な防除体制が整備された。</li> </ul>
H24	11回	延べ227名参加																		
H25	17回	延べ326名参加																		
H26	14回	延べ264名参加																		
H24	2回	35名参加																		
H25	2回	55名参加																		
H26	3回	39名参加																		
<p>7 新ショウガの生産振興</p> <p>県内一の新ショウガ産地における生産・出荷体制と販売・消費拡大など、産地基盤の強化と農家所得の向上を図る。</p>	<p>&lt;品質向上対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>品質向上対策（H24～26）</li> </ul> <p>&lt;出荷場の機能強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洗浄水再処理装置の整備（H24）</li> </ul> <p>&lt;販売・消費拡大PR&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加工品の開発（H24～25）</li> <li>消費宣伝対策（H24～26） 市場関係者との意見交換 H24 4回 H25 2回 H26 1回</li> <li>消費拡大PRの実施 H24 6回 H25 5回 H26 4回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出荷場での洗浄水再処理装置の導入により、洗浄作業最盛期でも水不足は発生しなくなった。</li> </ul>																		
<p>8 ユズを核とした中山間農業の活性化</p> <p>中山間地域の基幹品目であるユズの生産拡大と高品質化を目指し農家経営の安定化を図る。また、食品産業との連携による6次産業の強化を目指す。</p>	<p>&lt;生産の安定と高品質化対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>優良複製母樹の確保と技術指導（H24～26）</li> <li>ユズ園の状況把握のためのユズ生産者台帳やユズマップの作製作業（H25～26）</li> <li>栽培技術向上対策（H24～26） 省防除実証ほ調査 H24 7回 H25 9回 H26 10回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年度にユズ搾汁施設を改修したことで加工体制が強化され、大口需要者との継続的な取引が実現し、販売も安定する等一定の成果が見られた。</li> <li>また優良母樹の確保対策なども、ほぼ計画どおり進んだ。</li> <li>ユズについての広報誌が毎月発刊され、基本的技術や玉出し出荷の有利性が理解されつつある。</li> </ul>																		

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
生産量 550 t (H23年産:500 t)	(H27年度末見込) 330 t  (直近の実績) 475 t (H26年度末)	B	<p>まずはブランドの認知度が上がってきた。また、鳥獣害対策も成果が上がっている。平成25年度は目標を上回る生産量であった。平成26年度は、長雨・台風等の異常気象ではあったが、近年の高収量、高品質化等の対策の結果、前年より収量は増加した。平成27年度は、開花期の長雨により着果率が低く生産量は低下する見込み。</p> <p>&lt;課題&gt; 生産の高収量・高品質化・コスト高騰対策が課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産地ブランドのブラッシュアップ</li> <li>鳥獣被害対策の推進</li> <li>共同出荷体制整備に向けた検討</li> </ul>
販売額 45,000万円 (H23年産米: 49,541万円)	(H27年度末見込) 32,000万円  (直近の実績) 31,086万円 (H26年度末)	B	<p>天候の影響を受けやすいため、販売額、出荷量ともに伸び悩んでいる。平成26年度は、収穫については、南国そだち、ナツヒカリはほぼ良好に収穫されたが、コシヒカリについては8月以降の悪天候のため、収量・品質が大幅に低下した。加えて、米価の下落により販売額が急落することとなった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>白米熟粒対策や水稻奨励品種の成績検討など地球温暖化に対応した栽培技術の確立の推進</li> </ul>
出荷量 2,500 t (H23年産米: 2,660 t)	(H27年度末見込) 2,300 t  (直近の実績) 2,204 t (H26年度末)	B	<p>飼料米や酒米栽培への取り組みも始まっている。</p> <p>&lt;課題&gt; 地球温暖化に対応した栽培技術の確立が課題である。</p>	
販売額 120,000万円 (H23園芸年度: 92,300万円)	(H27年度末見込) 95,000万円  (直近の実績) 82,614万円 (H26年度末)	A-	<p>品質についての県内外の市場関係者の評価は高く、品質向上や出荷場の機能強化には取り組みの成果が見られるが、産地間競争による販売単価の低下により販売金額が減少している。また、加温コストによる低温管理や夏場の天候不順等により出荷量も伸び悩んでいる。</p> <p>&lt;課題&gt; 収量・品質向上技術および販売戦略の確立が課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一層の品質向上対策への取り組みに加え、県外量販店等を対象とした産地戦略の策定と実践</li> </ul>
販売額 19,000万円 (H19: 16,090万円) (H22: 19,226万円)	(H27年度末見込) 19,000万円  (直近の実績) 14,870万円 (H26年度末)	A+	<p>コス園台帳の整備や苗木の育成、コス栽培技術情報誌の発行など生産基盤強化に向けた取り組みが進んでいる。販売額については、平成25年度は、ほぼ目標額を達成したが、平成26年度は裏年であったことに加え、8月以降の多雨・日照不足により、果実肥大も悪く、前年実績の6割程度の生産となった。酢玉Aの出荷率は、10%から、15%へ拡大した。</p> <p>&lt;課題&gt; 搾汁残渣の処分費用が高まり利益が伸びないこと、また、食品産業等との連携強化と消費者ニーズに対応した商品開発が課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産の安定と高品質化</li> <li>未利用部位の活用と搾汁残渣対策のための施設整備の検討</li> </ul>

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果						
<p>9 四方竹のブランド化による中山間地域の振興</p> <p>全国的に希少性の高い四方竹を高知県のブランド品として育て、中山間地域の産業として振興するため、加工施設の整備等により、生産と地域加工の促進を図る。</p>	<p>&lt;加工能力の改善と適正化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冷水機の導入（H24）10台</li> <li>四方竹加工施設の整備（H25～26）</li> <li>選別作業の機械化に関する検討（H25～26）</li> </ul> <p>&lt;四方竹のブランド化戦略の実践&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>販路開拓（H24～26）</li> </ul> <p>&lt;四方竹の振興方策の策定&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高知市四方竹振興計画の策定（H25）</li> </ul> <p>&lt;四方竹の生産安定対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>放棄園及び園地マップの個票整理（H25）</li> <li>四方竹の生態解明のための地下茎等の生育調査（H24～26）</li> </ul> <table border="0"> <tr><td>H24</td><td>11回</td></tr> <tr><td>H25</td><td>21回</td></tr> <tr><td>H26</td><td>12回</td></tr> </table>	H24	11回	H25	21回	H26	12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品性のアップを目指し、消費期限の延長や調理済み加工品の開発に取り組み、高級量販店が真空パック商品に興味を示すなど、販路拡大の動きも具体化している。</li> </ul> <p>⇒加工品商品数 1アイテム（宝みそ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加工施設の整備等により作業能力が向上し、出荷量の安定につながっている。</li> </ul> <p>⇒販売額 H22：3,360万円 →H26：4,153万円</p>
H24	11回							
H25	21回							
H26	12回							
<p>10 「まるごと有機プロジェクトの推進」による中山間地域の振興</p> <p>（財）夢産地とさやま開発公社を中心として、有機・無農薬野菜などの生産と販売および加工品の開発・販売の取組を通じて農家所得の向上と地域の活性化を図り、土佐山百年構想を推進する。</p>	<p>&lt;有機農産物の栽培技術の確立と普及&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有機農産物の栽培技術の確立、普及（H24～26）</li> <li>土づくりセンター増強整備（H24）</li> <li>堆肥機能性向上のための研究施設に選定され、長期研究に係る調査開始（H26）</li> </ul> <p>&lt;加工施設の機能強化、加工品の開発と販路拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加工品の開発、販売（H24～26）</li> <li>四方竹加工場稼働（H26）</li> <li>6次産業化（2期計画）検討（H26）</li> </ul> <p>&lt;有機農産物等の流通対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産農家からの集荷販売（H24～26）</li> <li>産業振興アドバイザー派遣 販売促進 H24：3回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>首都圏をはじめとした有機農業分野での取引業者の拡大や、土づくりセンターの増強によるたい肥の製造・販売により、農家所得の向上へつながりつつある。</li> <li>四方竹加工場が稼働し、公社が加工作業を行うことで、生産・加工の分業化が図られ、生産の安定化につながった。また、食品衛生基準の向上、一次加工作業の効率化が図られた。</li> </ul> <p>⇒販売額 H22：8400万円 →H26：10,300万円</p>						
<p>11 直販店を核とした鏡地域の活性化</p> <p>高齢化に伴って販売額が伸び悩んでいるため、需給ギャップの解消や新規顧客開拓など、消費者ニーズに基づく活力ある直販所づくりと農家所得の向上を図る。</p>	<p>&lt;直販店機能強化に向けた仕組みの構築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野菜の乾燥や粉末等試作品づくり（H26）</li> </ul> <p>&lt;消費者ニーズに応じた生産販売対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産履歴活動の推進（H24～26）</li> <li>顧客ニーズ把握のためのアンケートや需給改善の分析などを実施（H24～25）</li> <li>クレーム対応研修会の実施（H26） 産業振興アドバイザー派遣 直販店におけるクレーム対応 2回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産履歴記載率100%となり「安全・安心」な直販所としてPRでき、また、顧客ニーズを把握することで、品薄期解消へ一歩進んだ。</li> <li>乾燥野菜などの試作品作成</li> </ul>						
<p>12 「食」の提供による地域農産物の消費拡大</p> <p>ニーズの高い総菜加工の充実や地域内の農産物を活用した新たな加工品開発の拠点とするとともに、農業教室や料理教室の開催など地域住民の農業への関心を高める活動、バイキングレストランの開催など地産地消の拠点施設として「新農村婦人の家」の機能強化を図る。</p>	<p>&lt;農産物加工施設の機能強化による新たな事業展開の構築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加工施設の改修に係る産振補助金の活用（H25～26）</li> <li>加工施設の改修、機器の拡充整備 産業振興推進総合支援事業費補助金 H25～H26：5,185千円</li> <li>販売額アップと消費者交流の充実 産業振興アドバイザー派遣 H24：2回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実行支援チーム会の開催、県アドバイザー制度の活用により、加工施設に併設する直販所「らぶ」を含めて販売強化計画を作成し、様々な改善に向けて関係者の意識が前向きに変化している。</li> </ul> <p>⇒販売額 H22：1,500万円 →H26：2,239万円</p>						



目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
販売額 4,000万円 (H19:3,360万 円) (H22:3,982万 円)	(H27年度末見込) 4,000万円  (直近の実績) 4,153万円 (H26年 度末)	A+	平成26年度は、夏季の長雨・台風等により前 年に比べ生産量が減少したものと思われる。 また、収穫期間が1ヶ月程度と限られているた め、今年は天候に恵まれなかったにもかかわらず、 まずまずの実績が見込まれており、冷水器 の導入 (H24) や加工場の整備 (H25) の成 果が表れてきている。  <課題> 一部の圃場では労働力が不足、収穫しきれ ていないものもある。 収穫・出荷作業は手作業が多く、さらなる省 力化が必要となっている。	・高知市四方竹振興計画の取り組 みの推進 ・出荷作業の省力化のための設備 導入の検討 ・都市圏での四方竹の認知度向上 や他産地とも連携した販路拡大な ど、ブランド化戦略の実践
販売額 10,720万円 (H22: 8,400万 円)	(H27年度末見込) —  (直近の実績) 10,300万円 (H26 年度末)	A	ジンジャーエールなどの加工品は徐々に販路を 広げているが、全体の売り上げは伸び悩んで いる。H26から四方竹の加工場が稼働を開始し たため、前年に比べ売り上げが増加している。  <課題> 販売額向上のため、菓子類など新商品の生産・ 販売に取り組む必要がある。	・加工品の開発と販路拡大 ・新たな6次産業化計画 (スイー ツの生産・販売) の実施
販売額 17,000万円 (H22:16,454万 円)	(H27年度末見込) 17,000万円  (直近の実績) 16,351万円 (H26 年度末)	A+	地域の人口減少や消費ニーズの変化により売り 上げが伸びていない。現在、アドバイザー制度 の活用 (クレーム対応) や乾燥野菜などの新商 品開発により売り上げ増加策を進めている。 また、高知市のふるさと納税寄付金謝礼品カ タログに「おたのしみセット」を掲載するなど新 たな取り組みも行っている。  <課題> 消費者ニーズに応じた販売所づくりが課題であ る。	・料理教室や販促イベントの関 連、品揃え方策の強化など消費者 ニーズに応じた生産販売対策の推 進
販売額 2,500万円 (H22:1,500万 円)	(H27年度末見込) 2,500万円  (直近の実績) 2,239万円 (H26年 度末)	A+	H26年6月に産振補助金を活用した加工施設が 完成し、総菜や弁当の充実や新商品開発に力を 入れている。  <課題> 製造作業の人員確保が課題である。	・農家レストラン、食農教育、料 理教室などの消費者との交流事業 への取り組み等、販売額の増加対 策の実施 ・農家レストラン等開催時にお ける参加者への声かけの実施による 作業員確保

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>13 生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出</p> <p>地場産品を活用した安全・安心な生乳加工品を消費者に提供するとともに、観光地や教育の場として牧場を活用するなど、新しい酪農経営のモデル牧場を創出する。</p>	<p>&lt;地場産品による生乳加工品の製造・販売&gt; ・販路拡大の取り組み (H24~26)</p> <p>&lt;観光地及び教育の場としての牧場の活用&gt; ・酪農教育ファーム、オープンファームの実施 (H24~26)</p>	<p>・乳牛やヤギ、ウサギなどの動物と触れ合いながらスイーツ等が楽しめる牧場直営の菓子店舗として知られるようになっており、酪農教育ファームへの参加児童数も年間で千人を超えるなど教育の場としても活用され、酪農を身近に感じてもらう取組が続いている。</p> <p>・龍馬パスポートへの観光施設としての参加や城西館のとさ恋ツアーの商品化により新たな客層の取り込みが図られている。</p> <p>⇒店舗の販売額 H22: 817万円 →H26: 1,133万円</p>
<p>14 森の工場を核とする素材生産量の拡大</p> <p>搬出間伐を中心とする素材生産量の増大や、生産性の向上に取り組むとともに、素材生産の拡大に必要な作業実行体制（他事業者との連携協力を含む）の強化につなげる。</p>	<p>&lt;搬出間伐を中心とする素材生産量の増大と生産性の向上&gt; ・森林施業に伴う集約化や作業道開設、間伐の実施 (H24~26)</p>	<p>・森の工場内での間伐面積等は増加している。</p> <p>⇒森の工場面積 H22 1,174ha → H26 1,453ha</p> <p>⇒素材生産量 H22 1,707㎡ → H26 2,653㎡</p>
<p>15 県産材を使った安心・安全の木造住宅の普及促進</p> <p>高知市地域の森林から生産された木材を使った木造住宅（こうち里山の家）の販売、普及促進に取り組み、木材の地産地消を推進する。</p>	<p>&lt;低価格の「こうち里山の家（規格住宅）」の普及促進&gt; ・普及促進事業の実施 (H24~26)</p>	<p>・件数は少ないが成約実績もあがっている。</p> <p>⇒受注数 H22 2棟 → H26 6棟</p>
<p>16 香野地区の農産物（トマト等）の付加価値向上</p> <p>新たな価値を創造する野菜・果実の地区内生産と地区内農産物を活用した新たな加工品を開発するとともに、当該加工品の新たな販路確保による農家所得の向上、雇用の創出による地域の活性化を図る。</p>	<p>&lt;加工品の安定生産と販路の確保、新たな加工品の開発&gt; ・加工品の開発、販路開拓 (H24~26) ・量販店などのPB商品や、普及価格帯商品の生産を開始 (H25)</p>	<p>・積極的な販路開拓や新たな商品開発を続け、有名百貨店の商品企画やギフトカタログで連続採用されるなどの成果があがっている。</p> <p>・首都圏の高質系スーパーのPB商品の出荷が始まるなど、連携農家の生産品を活用した商品の売上が増加している。</p> <p>⇒販売額 H26年度末 4,511万円</p> <p>・地元柑橘農家オリジナルサイダーの生産を受注するなど、地域の農産物生産者と連携した取組が進んでいる。</p>
<p>17 地域の食材を活かした包あん食品の開発・製造・販売</p> <p>農産物を中心とする地域の食材を活用した包あん食品を開発し、製造・販売を進める。</p>	<p>&lt;農産物を中心とする地域の食材を活用した包あん食品の開発・製造・販売&gt; ・包あん機等の機械設備を導入、OEMの大福を製造開始 (H24) ・OEM大福の販促活動 (H25~26) ・自社ブランドで文旦大福、生姜大福を商品化、販売開始 (H25)</p>	<p>・文旦や生姜の大福のほか、OEMでは地域特産の豆や茶を活用した大福を製造し、地域の特産品づくりにも寄与している。</p>



目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
店舗の販売額 1,600万円 (H20:新規) (H22:817万円)	(H27年度末見込) 1,400万円  (直近の実績) 1,133万円 (H26年 度末)	A	近年の長雨や台風により売り上げの伸びが鈍いが、平成26年9月から龍馬パスポートへの参加も実現し、商談会への積極的な参加により新規の取引も始まることとなっており、今後の売り上げ増加が期待できる。 城西館の「とさ恋ツアー」の商品化、教育ファームやオープンファームの実施、またホームページや龍馬パスポートなどの地道な広報により、徐々に取り組みが認知されてきた。  <課題> オーベルジュ土佐山の帰り客が取り込めていないこと、また、雨の日の販売額が極端に少ないため、雨の日の集客策が課題である。	・土佐山から高知方面への案内板の設置を検討 ・新商品の開発やホームページ・フェイスブックの充実、雨の日対策への一層の取り組みなど販売額の増加策の実施
森の工場面積 1,500ha (H22:1,174ha)  素材生産量 4,000㎡ (H22:1,707㎡)	(H27年度末見込) 1,853ha  (直近の実績) 1,453ha (H26年 度末)  (H27年度末見込) 4,000㎡  (直近の実績) 2,653㎡ (H26年 度末)	A+   A+	森の工場面積は、H27年度新規認定分により目標値に達することが確実である。また、素材生産量に関しても目標を達成できる見込みである。  <課題> 素材生産量については、平成26年度のように台風や長雨の影響により伐採・搬出作業の実施の遅れが出た場合には目標が達成できないことが懸念される。	・高度な搬出技術の習得に必要な研修の実施や作業システムの確立など、素材生産量の拡大に必要な作業実行体制の充実
こうち里山の家の受注 20棟 (H22:2棟)	(H27年度末見込) —  (直近の実績) 改装1棟 新築5棟 (H26年度末)	A-	新しいホームページの閲覧による来客者が増え、その来客者との契約が成立した。「高知もくもくランド2014」への出展も行っている。  <課題> 今後、発注個数を伸ばすため、「安心・安全の木造住宅」の知名度向上のためのPRの充実が課題である。	・認知度の向上を図るための一層の販売・普及促進活動の実施
販売額 9,400万円 (H22:0)	(H27年度末見込) —  (直近の実績) 4,511万円 (H26年度末)	A-	ジンジャーエール類が好調であり、増産体制を整え生産出荷を継続している一方、トマトソース等の商品は価格面の競争になりがちで苦戦している。大手百貨店や高質系スーパーとの取引実績を踏まえ、一般量販店向け普及価格帯商品の開発やOEM生産受注の拡大に向けた取り組みを行っている。  <課題> トマト系商品の販売戦略の見直し、商品の安定生産やコスト削減、販路の拡大が課題である。	・量的にまとまりのあるOEM生産の拡大 ・自社WEBサイトにおける商品説明や料理レシピ等の情報発信の充実 ・柑橘系商品の販路拡大
包あん食品の売上 9,000万円	(H27年度末見込) —  (直近の実績) —	B	アイテム数は着実に増えてきたが、事業者の経営戦略変更により包あん食品の製造事業を他の事業者に引き継いだ。平成26年度末をもって事業を廃止したことを確認したため、平成27年9月で地域アクションプランから削除する。	—

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>18 県産竹材を用いた新規分野への製品展開</p> <p>高知県産の竹を使用した竹集成材等の製造技術を活かした新製品の製造を行い、地域経済の発展と雇用の拡大を図る。</p>	<p>&lt;自動車ハンドル等の竹集成材の製造&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹材の安定供給のための連携体制を構築 (H25)</li> </ul> <p>&lt;新規分野への製品展開&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくり補助金を活用しロールプレス設備を導入 (H25)</li> <li>・高知ビジネスチャレンジ基金事業により海外事業展開に着手 (H25)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹ハンドルの需要は好調であり、竹シートや集成材を使った新製品の開発・販売も開始した。</li> </ul> <p>⇒雇用の創出 14人 (うち長期14人)</p>
<p>19 防災食の開発・製造・販売</p> <p>南海地震に備え、地域産品を原材料とする防災食の製造を行う。</p>	<p>&lt;地域産品を原材料とする防災食の製造販売&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災食の開発・製造・販売 (H25~)</li> <li>・防災展等での宣伝活動 (H25~26)</li> </ul> <p>H25 中部ライフガードTEC 防犯防災総合展 in KANSAI2013 防災ものづくりフェスタ フーデックスジャパン2014</p> <p>H26 オフィス防災EXPO ものづくり総合技術展 スーパーマーケットトレードショー 国際PB・OEM開発展 フーデックスジャパン2015</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災食の開発・製造が進んだ。</li> </ul> <p>⇒ H24 6アイテム → H26 11アイテム</p> <p>⇒土佐のミリメシ (5アイテム) が高知県防災関連認定製品の認定を受けた (H25)</p>
<p>20 「弘化台ブランドの創出」地元鮮魚を活用した食品の製造・販売</p> <p>規格外の地元鮮魚を活用して食品加工を行い、弘化台ブランドとして販売していくことで、水産物の消費拡大を図る。</p>	<p>&lt;地元鮮魚を活用した食品加工&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加工設備の整備 (H25)</li> <li>・各種許可の取得 (H25)</li> <li>・主力商品の完成 (H25)</li> <li>・医療機関や介護施設に対する業務用食材としての販路開拓 (H26)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各関係機関からアドバイスを受け、主力となる商品が完成したことで、本格的な商談を開始し、契約実績ができてきた。</li> </ul> <p>⇒売上額 9千万円 (H26年度末)</p>
<p>21 地域の農産物を使った菓子類等の外商の推進</p> <p>地域の特徴のある野菜や果物など農産物を使った菓子類を首都圏で直販することで、農産物の知名度及び雇用の拡大を図る。</p>	<p>&lt;首都圏での直販&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京「KITTEグランシェ店」と「自由が丘店」の2店舗で、県産の果実・野菜を活用した各種スイーツを販売 (H25~26)</li> <li>・直営2店舗の営業を一旦休止し、都市圏における今後の事業展開を再構築中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国版のテレビ番組や情報誌にも取り上げられ、県産農産物の魅力と活用法を広く情報発信した。</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
売上額 1.2億円 (H23：3,100万円)	(H27年度末見込) 1.2億円  (直近の実績) 1.1億円 (H26年度末)	A+	自動車用竹ハンドル素材の製造は安定しており、アウトドア用品など新たな商品の開発も始まっている。  <課題> 年間を通じた竹材供給量の安定化、一次加工事業者と伐採事業者の高齢化対策、新分野への販路拡大が課題である。	・新商品の開発に伴い竹材の供給がますます重要になってくるため、新たな伐採事業者の掘り起こしなど供給体制の確立 ・新分野への販売促進活動の実施
アイテム数 50アイテム (H24：6アイテム)	(H27年度末見込) 11アイテム  (直近の実績) 11アイテム (H26年度末)	A-	保存用ミレービスケットは順調に販売額を伸ばしている。一方、防災用缶詰「土佐のミリメシ」は、商品が完成したにもかかわらず缶詰製造会社との調整がうまくいかず製造が順調ではない。アイテム数も予定どおりには増えなかったが、別の会社との商談を開始したので今後の動きに期待する。  <課題> 防災用缶詰の製造の遅れが課題である。	・防災用缶詰の製造体制の確立
食品加工品の売上額 H27：2.5億円 (H23：0)	(H27年度末見込) —  (直近の実績) 9千万円 (H26年度末)	A-	売上の伸びが鈍いが、販路は着実に広がっており、大口の取引も見込まれている。  <課題> 新たな商談も始まっているが、安定した売上げが見込める商品がないため、新商品の開発が必要である。	・工場の衛生管理体制の充実 ・新商品の開発
首都圏での売上額 H27：1.7億円 (H23：0)	(H27年度末見込) —  (直近の実績) —	B	H26.9月末のキッテグランシェの模様替えに合わせてキッテ店を閉店、また、H27.2月末で自由が丘店を閉店したため、当初の目標値の達成は困難な状況となった。  <課題> 現在、事業を休止している。	・首都圏における販売戦略を再構築中。

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>2.2 はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランに基づく中心部の活性化</p> <p>「おまちの再興」「観光客を呼べるまちづくり」を目指し、「東西軸エリア活性化プラン」に基づき、官民協働でプランを推進し、幅広い経済効果やビジネスチャンスに繋げる。</p>	<p>&lt;東西軸エリア活性化プランの推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジショップの実施（H24～）</li> <li>・高知よさこい情報交流館開設（H25）</li> <li>・高知城歴史博物館建設工事の着工（H26）</li> <li>・新図書館建設工事の着工（H26）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登載46事業のうち高知城の魅力向上や来街者にやさしい商店街づくりなど41事業については、プランに沿った形で進行または事業完了となっている。</li> </ul> <p>⇒空き店舗率 H22 13.4% → H26 12.4%</p>
<p>2.3 中心商店街でのアンテナショップの運営</p> <p>中心商店街で開設した常設のアンテナショップ「てんこす」の運営により、地域産品の販売を促進し、地域の生産者等の収入の確保につなげるとともに、各種の情報提供により、来街者の利便性の向上や商店街の売上げの増加を図る。</p>	<p>&lt;常設のアンテナショップの運営&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンテナショップ「てんこす」の運営（H24～26）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知市中心部にアンテナショップ「てんこす」を開設し、地域産品の掘り起こしや販売が進み、地産地消・地産外商の促進につながった。</li> </ul> <p>⇒販売額 H22 89,181千円 →H26 146,589千円</p> <p>⇒取り扱い新規アイテム数 284アイテム（H26年度末）</p>
<p>2.4 多彩なイベントや演出等によるおまちのにぎわいづくり</p> <p>せり出し市等の多彩なイベントや、フラフ等による季節的な演出等により、おまちのにぎわいを創出する。</p>	<p>&lt;せり出し商いプロジェクト等の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100円商店街等イベントの実施（H24～25）</li> <li>・フラフの作成（H24～25）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの実施により商店街等への来街者の増加および周辺エリアへの回遊が見られた。効果のあるイベント等を継続して行い、商店街および周辺エリアの魅力を再認識してもらい来街者の増加を図る。</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
商店街等の通行量 (夏期・休日) H20実績(5.6万人) 以上を維持 (H20:5.6万人/ 日) (H22:5.8万人/ 日)  観光客の入込み客数 300万人 (H19:230万人) (H22:326万人)  空き店舗率 H20実績(15.3%)以 下を維持 (H20:15.3%) (H22:13.4%)	(H27年度末見込) 5.2万人  (直近の実績) 4.9万人 (H26年度 末)  (H27年度末見込) 300万人  (直近の実績) 300万人 (H26年度 末)  (H27年度末見込) 12.4%  (直近の実績) 12.4% (H26年度末)	B   A+   A+	近年の夏場の長雨の影響を考慮すると、健闘しているとは評価できる。関係者の聞き取りから判断して、年間を通じて通行量は増えているように思われる。 空き店舗率は着実に減少しており、行政の支援策が効果をあげていることは明らかである。  <課題> 新図書館の工事の進捗に遅れがみられる。また、外国人観光客の受け入れ態勢がまだまだ不十分である。	・高知市中心市街地活性化基本計画との統合を予定しており、地域アクションプランの修正を検討 ・外国人観光客の受け入れ態勢の充実
販売額 184,300千円 (H22.2.19~ H23.2.18: 89,181千円)  年間レジ通過者数 75,000人 (H25.2.19~ H26.2.18: 72,336人)  取扱い新規アイテム 数 400アイテム (H23:1,137アイ テム) (H25:472アイ テム)	(H27年度末見込) —  (直近の実績) 146,589千円 (H26年度末)  (H27年度末見込) —  (直近の実績) 69,956人 (H26年 度末)  (H27年度末見込) —  (直近の実績) 284アイテム (H26 年度末)	A   B   A	H26年度の売り上げは前年に比べて伸びてはいないが、7~8月の長雨の影響を考慮すると健闘しているとは評価できる。また、レストラン部門の営業時間短縮や定休日の設定などの経営効率化に取り組んでおり、利益の増額が期待できる。 また、H27年度から高知県の「こうちふるさと寄付金記念品」の事業を受託し、県内各地の事業者が生産する商品を取り扱っている。  <課題> 経営の黒字化は達成できているが、一層の増収策の確立が課題である。	・平成27年度から目標値に追加したレジ通過者数や新規取り扱いアイテム数を増加させることで、確実に利益が生まれる状態にするなど、経営の安定化の推進 ・ネット販売の強化 ・免税店の登録による外国人観光客の誘客強化
		—	「高知まちゼミ」や「まちなかよさこい」などのイベントの実施も定着してきた。また、フラフ等を活用した演出によりにぎわいづくりができてきている。  <課題> 集客力の向上とリピーターの創出が課題である。	・100円商店街やせり出し商いイベントなどの拡大

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>25 おまちに関する情報発信の充実</p> <p>おまちに関する情報を、より多くの人に届けるために、ガイドブック、ホームページ、ブログ等を幅広く活用し、総合的な情報発信を行う。</p>	<p>&lt;おまちの情報発信&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おまち」のホームページよさこいタウンリニューアル（H23）およびブログ・ツイッターによる情報発信（H23～26）</li> <li>・「おまち情報」の地図・テキストによる配信（H23）</li> <li>・おまちボード(看板)、OBIBURA MAPの改訂版の作成（H23、H25）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H23に中心街ホームページ(よさこいタウン)のリニューアルを図り、ブログ、ツイッターによる新たな情報発信を開始するとともに、関係団体等との相互リンクを形成した。</li> <li>・いままで実施されていなかった、「おまちに特化した情報」を収集し配信している。</li> </ul>
<p>26 中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上</p> <p>新たな高知市中心市街地活性化基本計画を策定し、多様な主体の参画のもとに、中核市として、にぎわいと活力ある中心市街地の再生を目指し、都市機能の増進と経済活力の向上を図る取組を進める。</p>	<p>&lt;高知市中心市街地活性化基本計画の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知市中心市街地活性化基本計画策定（H24）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度に高知市中心市街地活性化基本計画が内閣総理大臣認定を受け、新図書館建設事業や空き店舗対策事業など計画掲載事業の実施につながった。</li> </ul>
<p>27 近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進</p> <p>周辺市町村等とのネットワークを強化し、情報発信機能の強化やPR活動の充実、着地型観光の周遊ルートづくりを行うことによって、宿泊客の増加を図る。</p>	<p>&lt;広域観光の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仁淀川地域観光協議会へのオブザーバー参加（H22～25）</li> <li>・高知中央広域観光協議会設立（H25）</li> <li>・高知中央広域観光協議会プロモーションツール作成等</li> <li>・広域観光推進事業費補助金</li> <li>・H25：2,000千円</li> <li>・H26：3,000千円</li> </ul> <p>&lt;高知市内や近隣地域の観光資源を生かした体験型観光の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)城西館の旅行業2種取得（H24）</li> <li>・(株)城西館の「とさ恋ツアー」の新パンフレット及びホームページ（日本語、英語、中国語）を作成。（H26）</li> <li>・とさ恋ツアーパンフ・HP作成</li> <li>・産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業）</li> <li>・H26：1,546千円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者による着地型旅行商品造成の動きが、高知市内だけでなく周辺地域の自然や伝統文化、食材等の地域資源を観光資源に育てることへ繋がり、周辺地域の活性化へ寄与している。</li> <li>⇒「とさ恋ツアー」旅行商品数</li> <li>・H23：32コース</li> <li>・→H26：46コース</li> <li>⇒「とさ恋ツアー」利用客数</li> <li>・H23：1,118人</li> <li>・→H26：2,175人</li> </ul>
<p>28 本家よさこいのブランド力確立とよさこい文化の継承・発展</p> <p>年間を通じてよさこいの魅力を向上させることにより観光客の誘致を図るとともに、「よさこい」発祥の地としての地位の確立・ブランド化に取り組む。</p>	<p>&lt;年間を通じた「よさこい」の魅力づくり及び「よさこい」のブランド力の確立&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知よさこい情報交流館オープン（H25.4.27）</li> <li>・高知よさこい情報交流館の整備</li> <li>・観光拠点等整備事業費補助金</li> <li>・H24：29,977千円</li> </ul> <p>高知よさこい情報交流館PRポスター作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光拠点等整備事業費補助金</li> <li>・H25：64千円</li> </ul> <p>高知よさこい情報交流館の拡張</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光拠点等整備事業費補助金</li> <li>・H27：2,410千円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2011サッカー「アジア大会」でよさこいが披露されるなど、民間の力で一部成果はあったものの、よさこいのルーツをアピールする体系的な動きとなっていない。</li> <li>・オープン以降、入館者数は年間予定の2万人を大幅に上回り、県内外観光客に対し本家よさこいの魅力を伝えることができた。</li> <li>・隣接するはりまや橋商店街と連携を図りながら、商店街でのよさこい鳴子踊り披露など、よさこい情報発信を通じた賑わいの創出を図っている。</li> <li>⇒高知よさこい情報交流館入館者数</li> <li>・累計 7万人達成（H26.4.28）</li> <li>・10万人達成（H26.10.7）</li> </ul>



目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
		—	<p>中心商店街のホームページ「よさこいタウン」や「おまちボード」・「OBIBURAMAP」による情報発信ができています。 中心商店街アーケード内に多言語の観光パンフレットを設置。</p> <p>&lt;課題&gt; 情報の多言語化、観光の情報発信との連携が課題である。</p>	・外国人観光客が楽しめる商店街にするためのしくみづくり
		—	<p>新図書館や新資料館などの建設工事が始まり、都市機能の増進に向けた整備が進められている。 また、高知県立大学永国寺キャンパスの学生の流れが中心市街地に好影響を及ぼしている。</p> <p>&lt;課題&gt; 高知駅と中心商店街の回遊性の拡大、中心市街地の未利用空地の利活用が課題である。</p>	・高知市中心市街地活性化基本計画に基づく事業の進捗
<p>高知市内の宿泊施設の延べ宿泊者数 112万人 (H22:約123万人)</p> <p>(参考 H21:約99万人)</p>	<p>(H27年度末見込) 112万人</p> <p>(直近の実績) 93.4万人 (H26年度末)</p>	A+	<p>平成25年度に高知中央広域観光協議会が設立され、高知市、南国市、香美市、香南市が連携して観光PRに取り組んでいる。夏期の長雨の影響で平成26年度は宿泊者数が落ち込んだ。また、(株)城西館が取り組んでいる体験型観光「とさ恋ツアー」の商品数や参加人数は増加しており、地域アクションプランとしての成果は上がっている。</p> <p>&lt;課題&gt; とさ恋ツアーの観光商品を県内各地に広げにくいため、素材の掘り起こしが必要である。</p>	<p>・高知中央広域観光協議会の取り組みの活発化</p> <p>・とさ恋ツアーの商品造成の加速化</p>
<p>よさこい祭り来場者数 近年の最高来場者数 (1,200千人)の維持 (H22:1,200千人)</p> <p>高知よさこい情報交流館入館者数 200千人(累計) (H25.4.27~ H26.3.31: 66,418人)</p> <p>高知よさこい情報交流館フェイスブック いいね投稿数 8,000件(年間) (H25.4.27~ H26.3.31:4,565件)</p>	<p>(H27年度末見込) 1,200千人</p> <p>(直近の実績) 1,000千人(H26年度末)</p> <p>(H27年度末見込) —</p> <p>(直近の実績) 119,643人 (H26年度末) (H26.4.1~ H27.3.31: 53,225人)</p> <p>(H27年度末見込) —</p> <p>(直近の実績) 6,151件 (H26年度末)</p>	<p>A+</p> <p>B.</p> <p>A-</p>	<p>平成25年度まではよさこい祭り来場者数の目標値を達成していたが、平成26年度は台風の影響で開催が危ぶまれ、県内のホテル等へのキャンセルが相次いだことから、例年に比べて県外観光客を中心に来場者が大幅に減少した。また、高知よさこい情報交流館は平成27年度にスペースの拡張工事を行い、さらなる魅力の向上を目指している。</p> <p>&lt;課題&gt; 高知よさこい情報交流館の入館者数は順調に伸びてきたが、リピーターの確保と外国人観光客の受け入れ態勢の充実に向けた取り組みが課題となっている。</p>	<p>・高知よさこい情報交流館のスペース拡張による企画展や交流の場としての内容の充実</p> <p>・フェイスブックへの投稿記事の充実</p> <p>・外国人観光客に対応した多言語化の推進</p>

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>29 温泉開発による観光地としての魅力の向上</p> <p>観光目的として非常にニーズが高い、温泉を開発することにより、観光客の増加につなげる。</p>	<p>&lt;温泉の開発と活用に向けた検討&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉開発に関する検討（H24～26）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規温泉開発によるビジネスモデルを検討。</li> </ul>
<p>30 浦戸湾を活用した観光の振興</p> <p>浦戸湾を活用した観光遊覧船の取組等により県内外からの観光客の誘客を図る。</p>	<p>&lt;組織体制の再構築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業存続に向けた方策の検討（H25～26）</li> <li>・新規事業者の掘り起こし（H26）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度までは、観光遊覧船3隻体制で運航し、知名度も上がっていた。平成26年度末から新高知市観光遊覧船が1隻で運航を再開し、運行回数も増えてきている。</li> </ul>
<p>31 土佐の偉人を活かした観光の振興</p> <p>坂本龍馬をはじめとする土佐の偉人ゆかりの地の魅力を高め、県外に情報発信するとともに、歴史、文化、町並みや食などを活用した「まち歩き」を充実させることにより県内外からの観光客の誘客につなげる。</p>	<p>&lt;「龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～」の魅力向上&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長宗我部関連マップの作成、配布（H24～26）</li> </ul> <p>&lt;土佐の偉人ゆかりの地の魅力向上&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瑞山記念館来館者用のトイレを整備（H25）</li> </ul> <p>瑞山記念館のトイレ新設 観光拠点等整備事業費補助金 H25：1,446千円</p> <p>龍馬のうまれたまち記念館展示室改装 観光拠点等整備事業費補助金 H24：997千円</p> <p>桂浜公園整備基本計画策定 観光拠点等整備事業費補助金 H27：2,000千円</p> <p>&lt;土佐の偉人関連イベントの充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長宗我部まつりの支援</li> <li>第2回長宗我部まつりシャトルバス運行 観光拠点等整備事業費補助金 H25：42千円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐っ歩は毎年コースを見直し、リニューアルを図ることによって参加者のニーズに対応したコースとなり、また、高知市郊外を巡る「土佐勤王党コース」及び「長宗我部コース」を設定する等魅力が向上している。</li> <li>・武市半平太旧宅と墓周辺の観光資源の磨き上げを行ったことにより、県内外からの観光客から好評を得ている。また、長宗我部関連イベントも定着しつつある。</li> </ul>
<p>32 食による観光の推進</p> <p>高知市内で開催される「おきゃく」や「豊穣祭」などの食イベントを定着・充実させること等により高知の強みである「食」を活かした観光を推進する。</p>	<p>&lt;春の「おきゃく」や秋の「豊穣祭」の定着・充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジン04など他イベントと合同で開催することで、豊穣祭への集客の向上を狙った。（H25）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春には「おきゃく」、秋には「豊穣祭」が例年実施されてきており、定着しつつある。また、他のイベントと連携することにより、内容の充実も図っている。</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
		—	高知市旅館ホテル協同組合から温泉観光地化の推進に係る要望書が提出されており、高知市と対応を検討している。  <課題> 掘削案やタンクローリーでの運搬などがあるが、いずれも多大な経費がかかることが課題である。	・泉源開発可能性調査の実施を予定しており、その準備作業
観光遊覧船の乗船客数 15,000人 (H22: 5,899人)	(H27年度末見込) 1,000人  (直近の実績) 60人 (H26年度末)	B	新高知市観光遊覧船による「浦戸湾のんびりクルーズ」が平成27年3月から本格的に開始され、龍馬パスポートの体験プログラムの参加施設にも登録された。乗船客数は徐々に増えている。また、現在2隻体制での運航を検討している。  <課題> 県内外へのPRと体験型観光商品としての造成が課題である。	・御畳瀬漁港との連携による浦戸湾観光の振興
「龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～」等への参加人数 3,800人 (H23 1/1～12/31: 3,790人)	(H27年度末見込) 2,695人  (直近の実績) 2,170人 (H26年度末)	B	徐々に土佐っ歩への参加者が増えている。目標年である27年度は龍馬生誕180年に当たり、記念事業の開催などにより参加者が増えると見込んでいる。 また、長宗我部まつりや瑞山記念館（武市半平太）のイベントも定着してきた。  <課題> 記念行事だけでなく、年間を通じた誘客につなげることが課題である。	・大政奉還・明治維新150年の節目を迎えることから、より一層の土佐の偉人を活用した観光の振興
—	—	—	「土佐の豊穡祭」の開催などにより、県外からの入込客数が増えていることが関係者からの聞き取りで確認できた。食のイベントが増加し、全国的にも上質で多様性のある高知の食文化が認知されてきた。 また、東京スカイツリーのソラマチタウンに今年4月オープンした「りょうま」において、高知の食や観光のPRを行うなど新たな取り組みも生まれている。  <課題> 大都市圏のアンテナショップなどを活用し、カツオ以外の食文化もPRすることが課題である。	・食を活かした観光振興を推進するための隠れた食文化や地域食材の掘り起こし ・県外観光客に向けた高知の食のさらなるPR活動

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>3.3 県民性を活かした外国人観光客受入態勢の充実</p> <p>外国人観光客を県民の温かい人柄やおもてなしの心で歓迎するための仕組みづくりを行い、高知の良さを知ってもらうことにより誘客につなげるとともに、県内各地への周遊を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知おせっかい協会の設立（H26.12月）</li> <li>・外国人受入のための環境整備を支援する事業</li> <li>計画の作成（H26）</li> <li>産業振興アドバイザー派遣 1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品メニュー等の多言語化店舗やオセッカイスト認定者が徐々に増加している。</li> <li>H26年度末 30人</li> <li>・まちかど英訳相談会の開催が始まった。</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
商品表記の多言語化 店舗数 100店舗 (H26:0)	(H27年度末見込) 100店舗  (直近の実績) 17店舗 (H26年度 末)	A+	平成26年12月に設立され、定期的におせっかいミーティングを開催することにより活動が活発になるとともに、徐々に多言語化店舗数やオセッカイト認定者数も増えている。 また、商店経営者を対象としたまちかど英訳相談会を開催することにより、中心商店街との連携も進んできた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店主等を対象とした多言語化のまちかど相談会の開催による店舗数の拡大</li> <li>・大型外国客船の寄港の増加に伴う寄港時の観光案内など活動を充実</li> <li>・オセッカイトに対する英会話教室を開催</li> <li>・高知大学との連携による活動の充実</li> <li>・高知おせっかい協会の法人化の検討</li> </ul>
オセッカイトの認定者数 100人 (H26:0)	(H27年度末見込) 100人  (直近の実績) 30人 (H26年度 末)	A+	<p>&lt;課題&gt; 多言語化の店舗数、オセッカイトの拡大を図ること、また、活動の組織化（法人化）が課題である。</p>	

